

こだす新聞

第27号
平成10年1月1日
編集・印刷
児玉医院・歯科
Tel 0188-75-2092



年頭に当たって

新年を迎え、今年は明るい年になって欲しいと私も望んでいます。けれども、どうも今年も明るい兆しは見えません。

特に医療業界に限ったことではないでしょうが、行政改革の一端として昨年度より医療費が四千億円余り削減されそうです。この影響がどういう形で現れて来るのか知りませんが、四月に医療の点数改正が行われる頃にははっきりして来るでしょう。

現在、討議されていることに医療費の「定額制」というのがあります。一つの疾患の治

療費に一定の医療費しか医療機関に給付しないという意見です。

現在の所、歯科では根管治療(歯の神経の治療)が取りざたされています。

この意見は医療費を頭打ちにするという意味では効果があるのかも知れません。しかし、治療する対象が物質ではなく人間の体ですから、同じ疾患であっても症状の軽い人から重い人まで様々です。こういう疾患に対して同じ病名だからといって医療費を定額にすることは無理があると思います。

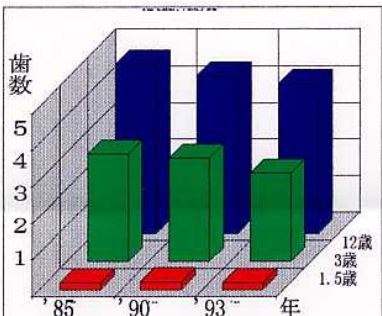
例えば悪いかも知れませんが、「坪単価いくらに決めたんだから立地条件が悪くてもこの価格で同じ家を国が決めた基準通り建てなさい」と国が大工さんに命令しているようなものだと思います。

こういう治療を患者さんは安心して受けられることができるでしょうか。

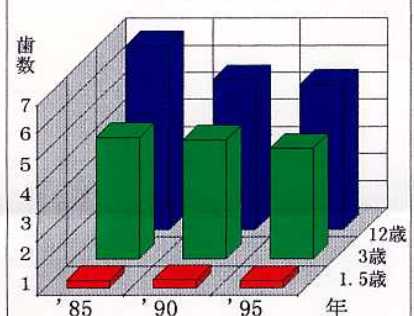
確かに医療費が高騰している社会保険組合のうち約八割

が赤字と聞いております。現状のままでと一二年で破綻する保険組合が出るだろうと予想されており、第二の住専になるだろうといわれています。しかし、国民の健康を守るはずの保健行政がこういう形で財政再建に取り組むのは本末転倒だと思いますが、皆さんはどう感じられますか。

歯科の予防2



年齢別 全国1人平均虫歯歯数



年齢別 秋田県1人平均虫歯歯数

平成七年に秋田県歯科医師会で歯科保健関係資料を作成しています。その中から抜粋して表にしたものが右の図です。右側が全国の平均、左側が秋田県の平均です。全国平均と比べると三歳児と十二歳児では全国平均よりも虫歯数が多い、東北でも虫歯が多い県として一位二位を争っています。

ここで注意していただきたいのは、秋田県では一歳半で全国平均とほぼ同じ虫歯数だったものが、年齢とともに格差が広がっている点と、三歳児を比べると、全国平均では年毎に減少しているものが秋田県ではあまり変化していないという点です。

この原因はどこにあるかと考えると、歯ブラシによる効果は三歳を過ぎてから格差が現れることから、三歳の虫歯数の差は、主に食生活の違いが大きな原因ではないかと思われれます。また、四歳からは食事に加えて歯ブラシとフッ素応用の影響が考えられています。

終了証

次の皆さんに終了証をお渡しすることができました。

- 伊藤綾香さん
- 金裕介さん
- 金沙織さん
- 鈴木紀恵さん
- 田中真衣さん
- 沢田石学さん

ごくろうさまでした。

今月の予定

- 十二月
- 三〇日 午後休診(煤払い)
- 三一日 冬期休診
- 一月
- 一日~五日 冬期休診
- 八日 午後診療します
- 一〇日 午後休診(医聖祭)
- 一八日~一九日 休診
- 近代口腔科学研究会新年会
- 一九日 一歳半児健康診断
- 二四日~二五日 メビウス新年会

なお、十二月三十一日と一月五日は救急処置をいたします。